

令和5年度ブリ担当者会議

(議事概要)

令和6年2月27日(火)10:00～3月7日(木)15:00にかけてメール形式による担当者会議を開催し、ブリの将来予測に係る水産庁からの2件の事務連絡の回答について検討した。

令和5年10月11日(水)に開催された資源管理方針に関する検討会(ブリ)第1回において、若齢魚を獲り控えた場合の将来予測について議論となった。その議論を踏まえて1件目の事務連絡によって、調整係数 β が0.95の基本的漁獲管理規則の下で、以下の若齢魚獲り控えパターンに基づく将来予測とリスク評価の実施が依頼された。すなわち、

- ① 0歳魚後期の漁獲圧を10%、30%、50%削減
- ② 0歳魚後期と1歳魚の漁獲圧をそれぞれ10%、30%、50%削減

以上の6パターンである。事務連絡の内容に基づく将来予測とリスク評価を実施し、文書案を作成し、当会議で諮問した。諮問の結果、下記の指摘について対応した。

- ・ 若齢魚の獲り控え量(獲り控えなかった漁獲量と取り控えたときの漁獲量の差)の表の追加
- ・ 現状の漁獲圧(F2023)は、親魚量が限界管理基準値以上の場合の漁獲管理規則案において、調整係数 β が1.30の漁獲圧に相当する旨を本文に追記
- ・ 視認性向上のための図2に色パターンの変更

本会議での検討を経て、若齢魚獲り控えた場合の将来予測に関する文書案(FRA-SA2024-SSC02-01)は承認された。

次に、上記資源管理方針に関する検討会において、ブリの目標管理基準値案(SBmsy)は本資源に適用されているリッカー(RI)型再生産曲線の加入量が最大となる親魚量以上の大きさであることが指摘された。その結果、RI型再生産曲線における加入量が最大となる親魚量を目標とした将来予測の実施が2件目の事務連絡によって依頼された。依頼内容に基づき、RI型再生産曲線において加入量が最大となる親魚量、そしてその親魚量を実現する漁獲圧を求めた。この漁獲圧による代替漁獲管理規則案の下で将来予測を実施するとともに、リスクも評価した。結果をとりまとめ、文書案を作成し、本会議で諮問した。本文書案については誤字などの指摘以外なく、本文書案は承認された(FRA-SA2024-SSC02-02)。

また、資源管理方針に関する検討会(ブリ)第2回の説明用資料として、前回の検討会で示した0～2歳の漁獲量を最大にする親魚量(SB97%msy)を目標とした将来予測を令和5年度資源評価結果を用いて更新した。その結果を表示したスライド案について本会議で承認された。